

射水市教育委員会 4 月定例会会議録

開会日時 平成 26 年 4 月 24 日 (木)

開会 午後 3 時

閉会 午後 4 時 30 分

会議場所 下庁舎 201 会議室

出席委員

眞岸委員長、宮原委員長職務代理者、大代委員、織田委員、結城教育長

会議事件説明員

橋詰教育次長、亀田教育次長、尾山学校教育課長、沢田教育センター所長、正橋学校給食センター所長、島崎中央図書館長、原田新湊博物館長、杉高学校教育課主幹、高橋生涯学習・スポーツ課主幹、塩谷学校教育課長補佐

傍聴人数 0 人

会議の要旨

3 時、委員長が開会を宣し議事に入った。

1 会議録の承認

承認された。

2 教育長の報告

(1) 総務文教常任委員会(4/16)の開催について

教育長が資料 1 に基づき説明した。

3 議案

(1) 議案第 7 号 射水市教育振興基本計画策定委員会設置要綱の制定について

尾山学校教育課長が資料 2 に基づき説明し、可決された。

4 協議事項

(1) 射水市いじめ防止基本方針について

教育次長が資料 3 に基づき説明し、了承された。

(2) マイスター教員認定事業について

教育次長が資料 4 に基づき説明し、了承された。

5 各課等の連絡事項及び報告事項

(1) 平成 26 年度教育委員会主要事業について

学校教育課長、生涯学習スポーツ課長が資料 5 に基づき説明した。

(2) 小・中学校児童生徒数について

学校教育課長が資料 6 に基づき説明した。

(3) 教育委員会行事予定

学校教育課長補佐が資料7に基づき説明した。

6 その他

(1) 次回教育委員会の開催日時について

日時・場所は、5月27日(火)午後1時30分から学校訪問(射北中学校)
午後3時から会議を下庁舎で開催

(2) 絵本夢回廊 ~絵本文化でつむぐ広域ネットワーク~

射水市大島絵本館 - 信濃町黒姫童話館 - 軽井沢絵本の森美術館

(3) 県立大学との連携について

中学校科学部への研究指導

(4) 小学校グリーンカーテン設置事業(温度低減効果の検証)

7 議事

(1) 射水市教育振興基本計画策定委員会設置要綱の制定について

[委員] 策定は努力義務であるが、地域の実情に応じた計画を策定し取り組んでいくことは必要、しっかりと進められたい。

[委員] 策定中の総合計画との整合性を図りながら、本市の目指す子ども像を示すとともに、教育の姿を明らかにして、施策の方向性を示していただければよいと思う。計画立てて進められたい。

(2) 射水市いじめ防止基本方針について

[委員] いじめの調査については年2回なされており、できれば各学期でされるべきと考える。Q-Uの予算付けはなかったが、各学校では通常のものだけでなく工夫されたものも利用されている。子どもたちの早期人間関係の発見に力をいれると同時に、教育相談を行う立場の人たちの資質向上を図っていくべき。子どもたちを指導する立場に当たっては、保護者や地域の方々へもつながっており、早く、指導・研修をすることによっていじめ防止も早くできると思う。

専門であるスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの対応はあるが、カウンセリング指導の先生や特別支援教育コーディネーターの先生たちが、他のクラスで抱えて困っていることを早く気付くことができるよう、特に小学校は担任制なので、クラスの中が見えないところがあるので、その先生方の学校の中での位置付けや立ち回り方、資質向上に係る研修・指導を工夫されたい。本年度は、どのような取組を考えておられるか

[事務局] 昨年度いくつかの小学校で指導に苦労した。教師の言うことを聞かないという症状で表れた。どうしてこうなるのか。子どもたちは何が都合悪くてこうなっているのかというような見方をすることが第1点。

次には、対応するのは担任がすべて指導するという古い概念があったが、そうでなく教員全員が協力し合って対応していく必要があるということがわかってきたという状況。大きな力を発揮するのはスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの先生

方であり、大切なのだが、学校の中で「みんなでやろう」、「こんなことに注意しよう」と言う中心人物が必要。その中で力を発揮してもらわなければならないのが、特別支援教育コーディネーターという役割の先生たち、発達障害をはじめとした、いろいろな障害を持つ子どもたちの教育を充実させるのが役割。そういった子どもたちを専門家につなぐなどの役割を果たさなければならない。この人たちの力をもっと発揮させる必要があると考えている。

学校の特別支援教育の能力アップ、スキルアップを図る必要があり、これまでもコーディネーターの能力アップは県教委でも研修を実施している。一般教員に特別支援の能力をつけてもらうための研修も充実させていく考えである。

県では授業の達人と言っているが学力向上策の一つとして、県下で指導力を持つ先生たち、小学校では国語・算数・理科の指導力のある先生を授業の達人に指定して、研修などにおいてリードしてもらうことを考えている。

本市では特別支援教育の分野でリーダーになってもらう者をマイスター教員に指定し、模範や研修リーダーになってもらい、市内全体の特別支援教育の能力アップにつなげていきたいと考えている。このように問題意識を持って進めていきたいと考えている。

[委員] 特別支援学級だけに支援を要する子がいるのではなく普通級にもいる。

[事務局] 教育委員会では学校に特別支援コーディネーターを指定させており、学校では特別支援学級を担当する者を指定していたところがある。普通級にも不都合を感じる子どもたちがいることから、もっと広い立場で見て、特別支援をやることのできる者をコーディネーターに充てる必要があると考えており、そういう動きになりつつある。

[委員] スクールカウンセラーやソーシャルワーカーのように週に1～2回しか来ない者より、毎日学校で子どもたちの変化を見ている者が、察知できる力を養成していくことを教育委員会で取り組んでいてもらいたい。

[委員] 特別支援学級の担任は特別支援に関して、どのような資格を持っているのか。

[事務局] 特別支援の教員免許を持っている者もいるが、持っていない者が多い。コーディネーターになれば各種の研修会に参加する。

障害児教育に当たる場合は、原則、特別支援教員免許状を持つ。なくても対応できる場合があり、特別支援学校にもその免許状を持たない者でも勤めることができる。

特別支援教育コーディネーターと特別支援免許状は資格要件の関係にはない。

[委員] 保護者の立場からすると、カウンセラー、ソーシャルワーカー、コーディネーター等、いろいろな役割を持つ人がいるから、どの相談をどの人にするのかわかりにくいところがあるが、子どもたちや保護者の力になってくれる人が多くいることは心強い。射水市において、このような方々は足りているのか。何かあった時に、すぐ相談できることが、より心強いと思う。

[事務局] スクールカウンセラーを各中学校は一人ずつ配置、教育センターでも対応可能。

[委員] 案内では、相談日等が書かれており、相談されたい方は教頭まで連絡というようになっており、子どもが問題視されるとあって、なかなか相談できない人もいると思う。気軽に相談できるような形であってほしい。

[事務局] 専門的な方々の配置は、時間が限られている。その分、教員が対応していくことに

なる。病院の診療心理士等専門家に付いていろいろ相談し、教員が子どもたちにどのように対応していくかを学び、上手に対応していくことが本来的な使い方と考える。ままならない場合は、直接、専門家に対応してもらうことになる。

困ったときの相談は、教育センターには専門のカウンセリングする先生がおられる。教育事務所にもおられ相談することはできる。相談されたい保護者は、学校に相談してもらうか、教育センターへ相談してもらうかになる。

[委員] 学校からのPRなども含めて、相談しやすい体制づくりをお願いしたい。

各家庭に配布する生徒指導だよりもスクールワーカーの相談日や教育センターの相談などを書き入れるようにすればよいと考える。4月や夏休み前などタイミングを計ってPRすればより効果的と思う。

[事務局] いじめ行動指針の周知もあり、機会を捉えて案内していきたい。

(3) マイスター教員認定事業について

[委員] 特別支援に係るマイスター教員は今年度は何人程度考えているのか

[事務局] 小中学校各1人

[委員] 模範となる者の授業を見て刺激を受けること、自分を改めていくことが大事。効果が表れればマイスターの数を増やしていくことも考えていってもらいたい。

[事務局] 教育活動をする同輩を真似したいと思わせる、技術を学ばせることを期待することから現職を対象としている。また、教壇に立つ教員をしっかりと見ている、評価しているという意味合いがある。

[委員] マイスターは誰がどのような形で任命するのか。

年齢的にはどのような人か。

[事務局] 校長の推薦や事務局で把握していることも合わせて考慮し、教育委員会が任命することになる。県では40～50歳をイメージ、市でも50歳代であっても情熱的な者を発掘したいと考えている。

(4) 平成26年度教育委員会主要事業について

[委員] 竹内源造記念館のリニューアル式典は多くの人で賑わっていた。通常においても気軽なカフェのようなコーナーもあればという意見もあった。まちなか美術館とも兼ね合わせながら、散策コースとして企画されてはどうか。

[委員] 夜はライトアップされていて、きれいである。ファミリーパークが夜の動物見学ツアーをするように、夜の何々と称して夏休みなど竹内源造記念館を親子で訪れる企画もよいのではないか。

4時30分、議事等が終了したので委員長が閉会を宣した。